

10	稲沢	清水小学校 下津小学校	氏名 小田杏奈 ○氏名 カミ野アヤカ華
分科会番号	6	分科会名	生活科教育

「新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども」
—気づきを基に表現する授業実践を通して—

1 主題設定の理由

単元「はなを さかせよう」において、アサガオを継続的に栽培する活動を通して、植物の変化や成長の様子についての気づきの視点を与えることでさまざまな気づきを発見させたい。また、気づきを身体で表現したり、友達と共有したりすることで、一つ一つの気づきを結び付けて考えられるようにしたい。さらに、アサガオへの自分のかかわり方を振り返ることで、成長の喜びを実感させ、大切に育てることができた自分自身へのよさに気付ける子どもを育成したい。

2 研究の構想

(1) 目指す子ども像

アサガオとのかかわりを通して、成長を自分のこととして喜び、気づきを基に表現し合おうとする子（「気づきを基に表現し合う子」）を目指し、本研究・実践を進めていく。

(2) 研究の手だて

目指す子ども像に迫るため、次の4つの手だてを講じる。

手だて①	はっけんタイム (対象への 気づき)	観察シートに、諸感覚（目で見たこと、におい、耳で聞いたこと、触った感触）を使って観察したことを記述する欄を設けることで、気づきの視点を与える。さらに、疑問や不思議、アサガオに対する思いを表現する場を設けることでアサガオへの願いや思いを高める。
手だて②	なりきりタイム (自覚された 気づき)	アサガオになりきって成長の様子を身体で表現したり、世話の仕方を考えたりする活動を設けることで、無自覚な気づきを自覚できるようにする。
手だて③	なるほどタイム (関連付けられた 気づき)	アサガオの成長の変化を比べたり※、友達と気づきや思いを共有したりする活動を設けることで、一つ一つの（個別的な）気づきを結び付けて関連付けたり、気づきを確かなものにした。りする。 ※成長の変化の視点：自分のアサガオの変化・自分と友達のアサガオとの比較
手だて④	できたよタイム (自分自身への 気づき)	アサガオへの自分のかかわり方を振り返ったり、友達のかかわり方のよさに目を向けたりする活動の場を設けることで、自分自身のよさや成長に気付けるようにする。

(3) 単元 1年「はなを さかせよう」(15時間完了)

(4) 単元目標

- ① 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや、植物も自分も成長していること、そして大切に育てることができた自分のよさにも気付く。また、水やりなどの適切な世話ができる。
【知識及び技能】
- ② 植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所や世話の仕方を考えて適切に関わり、その変化や成長の様子を表現する。
【思考力、判断力、表現力等】
- ③ 植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。
【学びに向かう力、人間性等】

(5) 単元計画

段	項	時	学 習 活 動	ねらい・評価・評価規準
ふれ	たねをま	1	たねのかんさつをする ・ アサガオの種を予想し、関心を引き出す。	
		2	たねまきをする ・ 種のまき方を話し合い、興味を引き出す。	☆ 成長への願いをもち、大切に育てていこうという思いをもつ。

る	こう		<ul style="list-style-type: none"> 名付けたアサガオに手紙を書き、思いを引き出す。(手だて①) 	【主体的態度】手紙 B 成長への願いについて書いている。 A 成長への願いや世話についての思いを具体的に書いている。
つかむ	まいにちせわをしよう	3 4	しょうやほんばをくわしくかんさつする <ul style="list-style-type: none"> 発芽の様子を動作化する。(手だて②) 子葉と本葉の違いに着目できるよう、虫眼鏡を用意する。 諸感覚を使って見つけたことを、観察カードに記入する。(手だて①) 気づきを共有する。(手だて③) 	☆ 葉や茎の様子を細かく観察し、子葉と本葉の違いに気付く。 【知・技】観察カード B 子葉と本葉の違いを書いている。 A 子葉と本葉の違いを具体的に書いている。
		5 6	せわのしかたをかながえる <ul style="list-style-type: none"> 身体表現で大きくなった苗や伸びたつるの今後について考える。(手だて②) 苗の引越し計画を立てる。 支柱を立てる計画を立てる。 	☆ 植物の成長のことを考え、植物の立場から世話の仕方を考える。 【思・判・表】身体表現 B 植物の成長の様子を身体表現し、世話の仕方を考えている。 A 植物の成長の様子を身体表現し、世話の仕方を具体的に考えている。
むかう	はなのようすをつたえよう	7	つばみやはなのかんさつをする <ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を使って見つけたことを、観察カードに記入する。(手だて①) 咲く様子から喜びを表現する。(手だて②) 友達と花の様子を比べて伝え合う。(手だて③) 	☆ 開花について、観察したことや思ったことを身体表現したり、絵、文で表現したりする。 【思・判・表】身体表現・観察カード B つばみや花の様子を身体表現したり、絵や文で表現したりしている。 A つばみや花の様子を身体表現したり、絵や文で具体的に表現したりしている。
		8 9	はなをきれいにのこす <ul style="list-style-type: none"> 花を残す方法を話し合う。 押し花や色水、叩き染めをする。 	
		10	はながさいたよろこびをつたえる <ul style="list-style-type: none"> 観察カードから成長の様子、育てる工夫や苦労を振り返る。 アサガオになりきって自分へ向けて手紙を書く。(手だて④) 手紙と作品を身の回りの人に渡し、より喜びを実感する。 	☆ 花の開花は、これまで世話をがんばってきた自分の努力によるものであると気付く。 【知・技】手紙 B 自分が世話したことを書いている。 A 自分がした世話が、植物の成長につながっていることを書いている。
		夏休み	なつやすみもせわをつづける <ul style="list-style-type: none"> 花や種の様子を記録し、継続観察する。 成長の様子を観察カードに記入する。 	
生かす	たねをとろう	11	たねをとる <ul style="list-style-type: none"> できた種を観察し、数を調べる。 枯れたアサガオをどうするとよいかについて話し合う。 	
		12 13	アサガオえほんをつくる <ul style="list-style-type: none"> 観察カードを一冊にまとめ、自分の成長を振り返る。 アサガオになりきって自分に向けて手紙を書く。(手だて④) 互いの頑張りや認め合う活動をする。(手だて④) 	☆ 植物の世話を続けられた自分の成長を感じ、これからも植物を育てていこうという思いをもつ。 【主体的態度】手紙 B 世話を続けてきた自分の成長を書いている。 A 世話を続けてきた自分の成長とこれからも植物を大切にしていこうと書いている。
		14	アサガオでさくひんをつくる <ul style="list-style-type: none"> 枯れたつるで作品を作るために話し合う。 	
		15	たねをプレゼントする <ul style="list-style-type: none"> 種をどうするかについて話し合う。 	

※評価観点【知識・技能】を【知・技】、【思考・判断・表現】を【思・判・表】、【主体的に学習に取り組む態度】を【主体的態度】と省略して記述する。

3 研究の実際

(1) 対象子ども 下津小学校1年生 75名

(2) 実践内容

ア ふれる段階 「たねをまこう」

たねをかんさつする

第1時は、種の種類を問う種クイズを行った。事前の聞き取りで、家で花を育てている子どもが多かったため、スライドにヒマワリの種やアサガオの種が映し出されると、多くの子どもが植物名を答えること

ができていた。しかし、2問目のオシロイバナや3問目のフウセンカズラの種は、見たことのない子どもが多かった。「スライドの写真じゃなくて、本物が見たい」という声が子どもから出たため、それぞれの種の実物を見せることにした。「これってみんなで育てるの？」という子どもの発言を受けて、クラス全体でどうしたいか話し合いを行ったところ、「育ててみたい!」という声がたくさん上がったため、アサガオは各自の植木鉢、それ以外は学年花壇で育てることにした。アサガオの種の観察を始めるにあたり、**はっけんタイム(手だて①)**の時間を設けた。観察する視点として、大きさ、形、色、触った感触の4つを与えたことにより、種の特徴を具体的に「たねくらべシート」に書くことができた子どもがほとんどであった。さらに、不思議に思ったことや、アサガオにどう育ててほしいかという視点をもってほしいと考え、不思議、気持ちの2つの視点も与えた。このことにより、資料1のようにアサガオの成長を願う子どもの記述が見られた。



たねまきをする

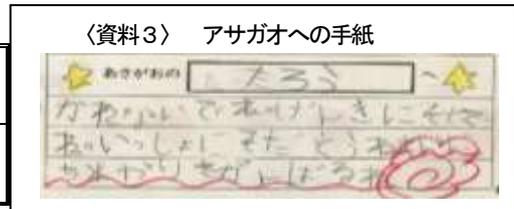
第2時では、植木鉢に種をどう植えるとよいかや何粒植えるとよいかについて話し合った。話し合いの中で子

〈資料2〉種まきをするときの児童とのやりとり

- C1 「早く咲かないかな」
- C2 「大きくなるかな」
- T 「大きくなるには、何する？」
- C3 「大事にする。名前つけない？」
- C2 「いいじゃん。大きくなってほしいから、おおちゃんにしよ。」
- C3 「りぼんちゃんにしよ。かわいから。」

どもがアサガオの種になりきって、狭いと大きくなれるかを考えられるように、**なりきりタイム(手だて②)**を設けた。種が植木鉢の中にたくさんあると、「他の種と近いし、大きくなったら狭い」ということに気付くことができた子どもの発言を受け、教師から「一つの穴に2つアサガオの種を入れるのはどう？」と問いかけると、「狭くてかわいそう」と、アサガオのことを考えた発言をすることができる子どもがいた。種の植える位置については、ある子どもが「植木鉢のふちっこに植えるんだよ」と発言した。そこで、子どもに種を植木鉢のどこに並べるか考えさせ、**なるほどタイム(手だて③)**として考えを交流させたところ、「同じだった」など、自分の考えとしっかり比べることができた。その後、自分の考えたまき方で種をまくと、多くの子どもが「元気に育ててほしいな」と期待を高めていた。種をまく時に資料2のような子どもとのやりとりが行われた。「名前つけない？」と友達と話している会話を基に、アサガオに名前を付けることにした。子どものアサガオを大事に育てたいという意識を高めさせた。種まき後のアサガオに宛てた手紙には、「大きくなってね」、「水やりがんばるね」など成長への願いが込められている。資料3にあるように、自分がアサガオの世話に具体的に関わっていくことを記述しているものは、観点【主体的態度】をA評価とした。

【主体的態度】	
B評価の記述内容例	・大きくなってね・早く咲いてね
A評価の記述内容例	・毎日水やりするからね・見守っているね (毎日水やりをしに行っている姿を含む)



イ つかむの段階 「まいにちせわをしよう」

しようやほんばをくわしくかんさつする

第3時では、発芽した芽を観察した。**はっけんタイム(手だて①)**では、目、手、鼻の諸感覚をイラストで示したカードを提示した後で観察をしたことで、多くの気付きを観察シートに絵や文で書き表していた。葉に線がたくさんあることや、根に近い部分が赤紫色であることに気付いた子どももいた。ある子どもが、「朝見たときには、葉が1枚だったのに、今見たら、2枚になってる」とつぶやいたことをきっかけに、他の子どもも自分のアサガオで確認し、「確かに」と納得していたようだ。この納得感を子ども全体に広げるために、**なりきりタイム(手だて②)**を行った(資料4)。一人ひとりがアサガオになりきった後に、発芽の動画を見せると、楽しそうに動画と一緒に体を動かしていた。発芽直後は子葉がくっついていますが、しばらくすると子葉が2枚になることに気付いた。

〈資料4〉児童の気付きから、なりきりタイムへの流れ

- C1 「どうやって葉っぱが二枚になったの。」
- C2 「ぼくの葉っぱみて。なんか二枚くっついてる。」
- C3 「えっ。ほんとだ。前くっついてたのが、離れたってことか。」
- T 「どんな感じではなれたのかな。」
- C3 「(手を合わせて) こうやって、のびて、ばあってなったんじゃない。」
- T 「そうなの? みんなでなりきってみよう。」

〈資料5〉児童と教師のやりとり

- C1 「葉っぱがすごく大きくなって。」
- C2 「わたしのアサガオは、つるものびてるよ。」
- T 「ほんとに葉っぱで前と変わっているところはないかな。」
- C3 「葉っぱが手のひらぐらいの大きさだよ。」
- C1 「前は、しなかったけどミントみたいなのにおいがする。」
- C2 「葉っぱがたくさんあるから、教えてみる。」

第4時では、以前撮影した子葉の写真を見て、今の自分のア

サガオはどうなっているかと問いかけた。すると子どもは「めっちゃ大きくなってる」と発言した。その発言から、子葉と本葉の違いやアサガオの成長の様子をよりよく観察する**はっけんタイム（手だて①）**の時間を設けた。また観察シートには「子葉と本葉と比べて違うところや新しく見つけたことをいくつ発見するか」と自分の目標を書けるようにした。資料5のようなやりとりを経て、観察の視点を確認した後、子葉と本葉を見たり触ったりして比べた。観察シートに子葉と本葉の違いを具体的に記入しているのは、観点【知・技】をA評価とした。

【知・技】B評価の記述内容例	・葉っぱが増えた。・大きくなった。
A評価の記述内容例	・自分の手のひらぐらいだった。・ハートみたいな形だった。 ・前はなかったのに、白い毛ができています。

せわのしかたをかながえる（苗の引っ越しをする）

第5時では、アサガオの様子を尋ねると、「葉っぱが大きくなってる、すごい。」と答えた。そこで、よりアサガオの気持ちを捉えるために**なりきりタイム（手だて②）**を行った。フラフープを植木鉢に見立てて、5人の子どもが入ったものと1人が入ったものを比べる活動を行った（資料6）。その後、子どもにアサガオをどうするか問いかけたところ、なりきりタイムで5人のフラフープから1人の方へ移動した子どもの様子を見ていたこともあり、「広いところに植えてあげる」「1つじゃ寂しいから、2つぐらいにしよう」という発言があった。抜いたアサガオはどうするかと問いかけると、「花壇に植えたい」「持って帰って育てたい」という意見があったので、花壇に植えたり、自宅に持って帰ったりした。

〈資料6〉 子どものなりきりタイムへの様子

C1 「葉っぱがすごい大きくなった。」
 T 「5人で植木鉢に入って、手をいっぱい広げられる？」
 C2 「できない〜。」
 T 「アサガオさん、もっと大きくなりたいけど、大きくなれる？」
 C3 「大きくなれない。」
 T 「一人だとうかな？」
 C4 「大きくなれる。けどさみしい。」
 C2 「じゃあ、わたしがそっちに入れてあげる！」
 （5人のフラフープから1人の方へ移動）（関連付けされた気付き）
 T 「2人だったら、寂しくないね。」

せわのしかたをかながえる（支柱を立てる）

第6時は、伸びてきたつるを観察することにし、**はっけんタイム（手だて①）**を設けた。すると、ある子どもが「友達のつるとからまっちゃった〜」と話をした。（資料7）その後、ほかの子どものつるはどうだったのか尋ね、**なりきりタイム（手だて②）**を行った。なりきりタイムを通して、このままではよくないと考えた子どもに、次にどのような世話をしたらよいか尋ねると、すぐに支柱を立てるという案が出た。どうして支柱を立てるとよいのかを尋ねると、「つるが伸びてって横にいっぱいっっちゃうから」と発言した。横に伸びたままではいけない理由を明確にしたところで、すぐに支柱を立てる活動へ移った。

〈資料7〉 子どもと教師のやりとり

C1 「つるが友達のと、からまっちゃう。」
 T 「えっ！どうしようね。」
 C2 「どっか行かないように棒を立てる！」
 C3 「知ってるよ。お姉ちゃんが言ってたもん。」
 C4 「2年生も立てているよね。」

ウ むかうの段階 「はなのようすをつたえよう」

つぼみやはなのかんさつをする

朝、アサガオに水やりをしているときに、「花が咲いているよ」とうれしそうに報告する子どもがいた。他の子どもは花の咲いたアサガオを羨ましそうに見ていた。ある子どもが「ぼくのも、もうすこしかな」と発言したので、第7時では、つぼみや花を観察する**はっけんタイム（手だて①）**の時間を設けた。観察の前に、「前と違うところをいくつ見つけるか」という目標を立てるよう指示した。ヒントとして、目で見たこと（色、形、大きさ、数、長さ）、触った感じ、においなどの観察の視点を示した（資料8）。観察したことを、**なるほどタイム（手だて③）**で共有すると、つぼみが少しずつ成長していくことに気付くことができた。すると、「つぼみは、ねじれたところから、だんだん広がっていくんだよね。」という意見が出た。他の子どもも「確かに」と発言したので、再度花が咲く様子を動画で確認した。その後、**なりきりタイム（手だて②）**でつぼみから花が開く様子を表現した（資料9）。最後に、「きれいに咲いた」「咲けて

〈資料8〉 子どもの観察シート

〈資料9〉 子どものなりきりタイムの様子

C1 「ねじれた花のひらくところ、見てみたいな〜。」
 ~開花の動画視聴後になりきりタイム~
 T 「アサガオの花はどんなふうに咲いていたかな？」
 C2 「ねじれたつぼみが、だんだんと広がって咲いた。」
 C3 「最後は、パンって感じで咲いた。」
 C4 「丸い花が咲いた。」
 T 「花は最初から丸く咲いていたのかな？」
 C5 「ちがうよ。最初ねじれて、いっきにぱって咲いた。」

うれしい」という喜びを表現されていた。

はなをきれいにこのこす

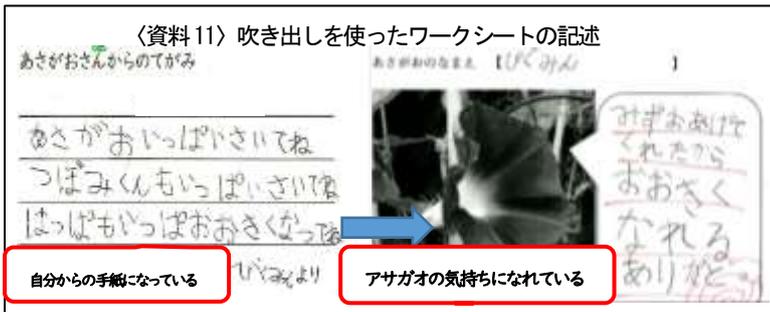
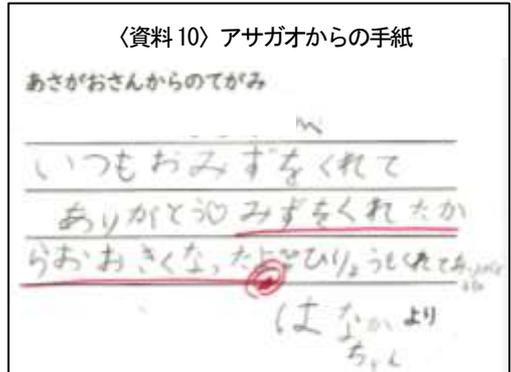
アサガオの観察をしていると、「昨日咲いていた花がしぼんじゃった」「すぐ枯れちゃうね」という発言があった。この発言から第8時では、「花をきれいに残すためにどうしたいか」を話し合うことにした。残す方法が分からない子どもが多かったため、色水や押し花、叩き染めという方法があることを提示した。どの子どもも、自分が育ててきた大切なアサガオをどの方法で残すか真剣に考えていた。

そして、第9時には、きれいに咲いたアサガオを押し花にした。お守りにしてランドセルに入れたり、以前先生インタビューをしに行った先生や身近な人にプレゼントをしたりした。活動後に感想を聞くと、「アサガオをきれいに残せてよかった」「今度は違う方法でアサガオを残したい」と、アサガオをきれいに残すことができ満足したり、もっとアサガオの花と一緒にいたいという思いを聞いたりすることができた。

はながさいたよろこびをつたえる

第10時では、自分が世話を頑張ったからアサガオが成長したということに気付けるように、アサガオから自分に宛てて手紙を書く活動を行った。まず、今までどんな世話をしてきたかを振り返った。その際に、今までの観察シートや写真を用いて、アサガオを育てたときの苦労を振り返ることができるようにした。次になりきりタイム(手だて②)を行い、アサガオになりきって、お世話をしてもらったときの気持ちを振り返った。そして、できたよタイム(手だて④)で、アサガオになりきって自分に宛てて手紙を書いた。「みずやりまいにちやってくれてありがとう」「ずっといきてこられてうれしいよ」など、自分が毎日世話を続けたからアサガオが成長し、花が咲いたということに気付くことができた(資料10)。また、書くことが難しい子どもがいたため、育てたアサガオの写真に吹き出しをつけたワークシートを使って、「アサガオさんはなんていっているかな」と問いかけると、資料11のように、アサガオになりきって、世話をしてもらったときの気持ちを書くことができた。

資料10にあるように、自分がした世話(行動)を記述するだけでなく、自分がした世話がアサガオの成長につながっていること(行動+成長)を具体的に記述しているものは、観点【知・技】をA評価とした。



【知・技】 B評価の記述内容例	・水やりをしてくれてありがとう。(行動) ・肥料をくれてありがとう。(行動)
A評価の記述内容例	・水をくれたから大きくなれたよ。 (行動+成長) ・肥料や水をくれたから、大きくなれたよ、 ありがとう。(行動+成長)

4 結果と考察

(1) 手だて①「はっけんタイム」について

〈資料12〉 観察カードの「対象への気付き」が記述できた人数(75名中)

	目で見えたこと				におい	触った 感触
	大きさ	形	色	数		
第1時 種の観察	52名	68名	75名			65名
第3時 子葉の観察	36名	70名	73名		55名	71名
第4時 本葉の観察	58名	66名	47名	41名	11名	69名
	〈その他の記述〉・葉っぱに線がたくさんある。・たくさん白いひげが生えている。					
第7時 つぼみや花の観察	60名	54名	69名	33名	21名	25名

「はっけんタイム」では、観察シートに、諸感覚(目で見えたこと、におい、耳で聞いたこと、触った感触)を使って観察したことを記述する欄を設けたことで、観察する視点が分かり、特徴を具体的に記述することができた。また、どの感覚を使って観察するのかを選び、気づいたことを他の子と比べる活動を取り入れることで、

成長の変化の違いをより多く知ることができた。資料12のように、第1時と第4時を比べると、数々においなど、観察する視点が増え、さまざまな見方から観察することができた。また、大きさ、形、色、数などの与えた視点以外のことを記述することができた。以上のことから、「はっけんタイム」は、対象への気付きを高めることに有効であった。

(2) 手だて②「なりきりタイム」について

「なりきりタイム」では、アサガオになりきって成長の様子を身体で表現したり、世話の仕方を考えたりする活動を設けた。資料13のように、身体表現からアサガオの成長の様子や世話の仕方に気付き、表現できた子どもがいた。その子どもを中心に、全員で成長の様子や世話の仕方を考えることができた。以上のことから、「なりきりタイム」は、無自覚な気付きを身体表現することで自覚でき、アサガオの成長の様子に気付いたり、世話の仕方を考えたりすることに有効であった。

〈資料13〉 なりきりタイムでの「自覚された気付き」ができた児童

	A評価	A評価の例（身体表現と言葉による表現ができた）
第5時 発芽の様子	9名	(A児) (身体表現) アサガオの葉が広がるように手を広げ、隣の友達とぶつかる。 (言葉) 「狭くて大きくなれない」
第6時 支柱を立てる	7名	(B児) (身体表現) つるが伸びるように腕をのぼし、様々な方向に体を傾け、すぐ隣の友達と手をつなぐ。 (言葉) 「隣の子とからまっちゃう」

(3) 手だて③「なるほどタイム」について

「なるほどタイム」では、「はっけんタイム」で見つけた不思議を友達と共有する活動を設けた。資料4のように「朝見たときは1枚だったのに、2枚に葉っぱが分かれた」（対象への気付き）という不思議を共有することで、「葉がくっついてたのが2枚に離れていく」という気付きから葉の成長過程を理解し、納得することができた。また、資料9のように「ねじれたつぼみがどのように開くのか」という不思議を共有することで、「ねじれていたつぼみが、膨らんで、だんだん広がって花が開く」という一つ一つの気付きを関連付けて考え、花が咲く過程を理解し、納得することができた。以上のことから、「なるほどタイム」は、一つ一つの気付きを共有し、身体表現をしたり、動画で確認したりすることで、気付きを結び付けて考えることに有効であった。

(4) 手だて④「できたよタイム」について

「できたよタイム」では、アサガオへの自分の関わり方を振り返る活動を設けた。今までのアサガオへの関わり方を振り返った後、

アサガオになりきって自分への手紙を書いた。資料10、11、14のように、アサガオからの手紙の中で「お水をくれてありがとう」「水をくれたから大きくなったよ」など、これまで世話を続けてきた自分に対してアサガオからの感謝の言葉を書くことができ、自分の頑張りを認めることができた。また、自分がした世話がアサガオの成長につながっていることに気付くことができた子どももいた。以上のことから、「できたよタイム」は、自分がアサガオを頑張らせて育ててきたと自分自身をみつめ、自分のよさに気付くことに有効であった。

〈資料14〉 「アサガオからの手紙」の記述内容

	行動のみ	行動+成長 (A評価)
第10時 アサガオからの手紙	52名	21名

5 成果

- 「はっけんタイム」では、観察する視点を明確にしたことで、見付けたことを比べたり、違いを見出そうとしたりする子どもが増えた。
- 「なりきりタイム」では、成長の様子を身体で表現したり、世話の仕方を考えたりする活動を設けたことで、無自覚な気付きを自覚し、成長の様子に気付いたり、世話の仕方を考えたりすることができた。
- 「なるほどタイム」では、一つ一つの気付きを共有し、身体表現をしたり、動画で確認したりする活動を設けたことで、気付きを結び付けて考えることができた。
- 「できたよタイム」では、アサガオへの自分の関わり方を振り返る活動を設けたことで、アサガオを頑張らせて育ててきた自分自身を見つめ、自分のよさに気付くことができた。

以上の4つの手だてにより、子どもたちの気付きの質を高め、子どもたち自身が自分自身のよさや成長に気付くことができた。また、意欲や自信をもつことにより、1年生なりに新たな価値を見出し、生活の中に生かそうとする姿が見られた。

6 終わりに

今後も、生活科と社会科や理科との接続を意識した視点を提示するとともに、子どもたちのさまざまな気付きを基に、話し合い等の表現活動を通して、気付きを結び、確かなものにし、気付きの質を高めていきたい。